

---

# ある日のケルベロス

RX-140 “ YAMATO ”

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ある日のケルベロス

### 【Nコード】

N9544U

### 【作者名】

RX-140 “YAMATO”

### 【あらすじ】

R-TYPEの戦闘機達の内、R-13姉弟をピックアップして書いてみた処女作です。駄文でごめんなさい。

**（前書き）**

駄文注意。

今日は特に行く所が無い。

俺（R - 13A）はなにをしよか……とりあえず今は朝6時だ。

7時ごろにはアンカーに餌あげてから朝食をとる。その後は未定。  
朝食まで何をしようか……

「おーい、あつさだよー♪」

この声は……

「早くしないとオムライス冷めちゃうよ？」

やっぱりだ……

俺の姉貴、R - 13T “疫病神エキドナ”。

天然なのはいいとしても、料理ができない、家事全般ができない、人を巻き込む、家に災厄を持ち込むなど、かなり迷惑な存在だ。

つい朝からオムライスだと？そもそも朝食は7時になってからでよくないか？

妹の一人、R - 13A2 “ハーデス”は……寝室の扉を開けっ放しにして寝てる。

そしてもう一人の妹、R - 13B “カロン”はというと……

「お兄ちゃん、早く下りてきてよ♪」

いつ聞いてもかわいい声だ……で、オムライス食ってるし。

「姉貴、朝からなぜオムライスなんだ？」

「細かいことは気にしないの！」

気にするわ！！

とりあえず食べよう……

- - - - -  
- - - - -  
- - - - -

ハッ！！

……あれ？　なんでベッドの上にいるんだ？

「あ、お兄ちゃん……起きたあ……？」

ハーデスが眠たそうな目でこちらを見ている。

「なあ、なんで俺自分の部屋にいるんだ？」

「カロンがね、お兄ちゃんが倒れたって騒いでたから、お姉ちゃんが運んできたんだよお？」

罪償いにはなつてねーぞ、姉貴。

「そーいえば、どうして倒れちゃったのお？」

「あのオムライス、タバスコの味しかなかった……」

「お姉ちゃんがケチャップと間違えて、タバスコ入れちゃったのかなあ……」

それ以外の理由があつたら教えてほしいものだ。

そういえばアンカーの餌やりまだだったな。あげてくるか。

「ワンツー！」

よしよし、いい子だなあ……

餌を皿に載せるとすぐに食べ始めた。

あれ？　姉貴のやつ、どこ行くつもりだ？

「あ、ケロちゃん。どうしたの？」

「バックパックなんて持ってどこ行くつもりだ？」

「山。ストライダー（R - 9 B）に誘われてるの」

山に行つてどうするつもりだ？

しかしそれを聞く前に姉貴はどっか行つてしまった……

「お兄ちゃん、お昼なに食べる？」

カロンがチラシを持ってきた。

そのチラシはピザ屋のものだった。

「ピザが食べたいのか？」

「うん」

「ハーデスは何がいいんだ？」

「スパゲティが食べたい……」

まだ眠いのかい。

「じゃあ、ピザ屋のスパゲティでいいか？」

「うん……」

電話……子機と充電器しかない。姉貴は親機をどこやったんだ？

「ふわぁ……眠いよぉ……」

ハーデスがあくびをした。やめろ、こっちまで眠くなる……

30分位してピザとスパゲティが届いた。

カロンはピザ2切れを重ねて食べている。

「おいしいよ。お兄ちゃんも食べて」

「ふわぁ……おいしいけど、眠い……」

ハーデス、いつまで眠いんだ。

「ごちそうさまー」

「ごちそうさ……ふわぁ……」

ハーデスはまだあくびしてる。

「お兄ちゃん……おやすみ……」

……え？

気付いた時にはハーデスは、腕に抱きついたままぐっすりと眠っていた。

片付けはカロンがやってくれた。

しかし、ハーデスが抱きついていると何もできない。

3時になった。

ハーデスが抱きついていてるため何もできない。

「お兄ちゃん……おやつ……」

とりあえず離せ。

といつても家にはおやつのはなしは無い。

「お兄ちゃん、おやつは？」

カロンの顔を出した。

「家には無いならな、買って来る」

「おにーちゃん……おやつ……」

おやつがほしかったらとりあえず離せ。

このコンビニ……いくらなんでも狭すぎる。

なぜもつと大きくしないんだ？

とりあえずポテチ2袋、クッキー系2箱を買っていこう。

「ポテチ……」

ハーデスが寝言を言っている……まだ寝てるのか。

カロンのクッキーを渡すと、大事そうに抱えて自分の部屋に入ってしまった。

ハーデスにポテチを渡すと……

「ポテチいいいいい！！！！！！」

ひたたくるようにポテチをとって、そのまま自分の部屋に入ろうとした。

しかし、あいにく部屋のドアはしまっていた。ドアにぶつかったハーデスは、そのまま気絶してしまった。

とりあえず部屋に入れてやる。

夕食はそうめんにすることになっていた。

ハーデスが部屋から出てきた。

「夜ご飯まだあ……？」

いまはまだ5時だ。

「6時ぐらいでいいんじゃないのか？」

「おなかすいたあ……」

カロンも顔を出してきた。

結局早めにとることにする。

どうしてこうなった。

俺がそうめんをゆでている間に作ったのだろう。そこには流しそうめんセットがおいてあった。

「そうめん、そうめん♪」

ハーデスがうれしそうに繰り返している。

二度も寝たからか、はしゃいでも疲れそうに無い。

結局俺がそうめんを流すことになり、流しそうめんが終わったあとに、フツウのそうめんを食べることになってしまった俺であった……

寝る時、カロンとハーデスが部屋に入ってきた。ちようど横になっていて、枕の近くの電気を消そうとしていたときだった。

「お兄ちゃん、一緒に寝よ♪」

そういうことか。

2人は俺が返事をする前に、俺の布団にもぐりこんできた。結局そのまま寝ることになった。

ぐはぁ……

## （後書き）

### キャラ設定

R - 13 T：天然で家事などが一切できない。ドジッ子だがこの作品では描かれていない。すさまじいブラコンだがやはり描かれていない。

R - 13 A：ややシスコン。しかしハーデスとカロンのみが対象であり、エキドナは除外どころか関わりたくも無いらしい。まじめでツツコミ役。この作品の主人公。

R - 13 A2：いつも眠たいわけではない。やや天然でやさしい子。ブラコン気味の様子。

R - 13 B：ハーデスの性格＋活発といった感じの子。この子もブラコン気味のような。

最後の「ぐはあ……」はたぶん寝返りをうった妹2人のどっちかの足がケロちゃんの腹に当たったものと思われます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9544u/>

---

ある日のケルベロス

2011年10月9日11時16分発行